

報道関係各位

展覧会開催のお知らせ

ワニがまわる タムラサトル

今年で開館 15 周年を迎える国立新美術館（東京・六本木）では、2022 年 6 月 15 日（水）より現代美術家・タムラサトルの個展を開催します。

代表作「まわるワニ」のカラフルな彫刻を、約 12 メートルの巨大なワニを中心に、大型インスタレーション作品として展開します。ユーモアに満ちたタムラの作品は、既成の価値観を揺さぶり、「アートとは何か」という問いについて考えさせられます。また、作家の自由で豊かな想像力に触れることで、アートを身近に感じ、子どもから大人まで楽しんでいただける展覧会です。



タムラサトル《スピニングクロコダイル》1994 年 小山市立車屋美術館
撮影：木暮伸也

タムラサトル×川口市立前川東小学校 6 年生〈われわれはワニを回す〉
2019 年 川口市立アートギャラリー・アトリア 展示風景
撮影：金田幸三

■展覧会概要

展覧会名 ワニがまわる タムラサトル

会 期 2022 年 6 月 15 日（水）～7 月 18 日（月・祝）※毎週火曜日休館

開館時間 10:00～18:00 ※毎週金・土曜日は 20:00 まで
※入場は閉館の 30 分前まで

会 場 国立新美術館 企画展示室 1E（東京・六本木）

主 催 国立新美術館

展示協力 MAKI Gallery、TEZUKAYAMA GALLERY、日本大学芸術学部、宇都宮メディア・アーツ専門学校

観 覧 料 無料

お問い合わせ 050-5541-8600（ハローダイヤル）

展覧会ホームページ https://www.nact.jp/exhibition_special/2022/spinningcrocodiles/

■作家プロフィール

タムラサトル（現代美術家）

1972年 栃木県生まれ。1995年 筑波大学 芸術専門学群 総合造形卒業。「まわるワニ」、「後退するクマ」、「登山する山」、「バタバタ音を立てる布」、「端数がない重量の彫刻」、「大袈裟で開放的なスイッチ」、「動き続ける図形もしくは文字」、「10回たたく装置」、「空間を最大限に使用しただけインスタレーション」などを制作・発表している。

<https://www.tamurasatoru.com>



ワニがまわる理由は、聞かないでほしい。

大学3年の秋「電気を使った芸術装置」という課題がありました。電気に関する知識がなく未経験の分野だったため、かなり困惑しました。プラン発表の前夜、朝起きて最初に思い描いたものを作ると決めて就寝。翌朝、なぜか「ワニがまわる」という絵が浮かび、それを作ることにしました。

それは、4.5メートルのワニが毎分30回転（1994年当時）する作品で、そのわけのわからなさに、自分で作ったにもかかわらず、何か得体の知れない物に出くわしたかのような、強烈な興奮を覚えました。この時、初めて作家になるということを強く意識しました。

その後、なぜ「ワニがまわる」のか、意味を考えながら、作り続けました。その結果「ワニがまわる」ことに意味があるのではなく、「よくわからないが、なぜかワニがまわっている」という不可思議なこの状況こそが、作品の面白さの本質であることに気づいたのです。

「なぜ、ワニがまわるのか」という問いに、答えはありません。この大きな疑問を、そのまま疑問として持ち帰ってほしいと思っています。

タムラサトル

■ワークショップ「まわるワニをつくる」開催概要

タムラサトル氏と一緒に、「まわるワニ」を作るワークショップを開催します。制作した作品は沢山のワニとともに展覧会場に展示されます。

日 時 2022年4月29日（金・祝）10:30～15:30、
5月3日（火・祝）10:30～14:30
※2日間かけて制作するワークショップです。両日とも
ご参加いただける方のみお申し込みください。

場 所 国立新美術館 別館3階多目的ルーム
対 象 小学5年生以上 ※大人もご参加いただけます
定 員 20名 ※事前申し込み制
参 加 費 おひとり2,000円



※制作したワニは、展覧会終了後に参加者の方へご返却します。

※申し込み方法等の詳細は、決まり次第ホームページでお知らせいたします。

報道関係のお問い合わせ先

国立新美術館 広報・国際室 〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2

TEL: 03-6812-9925（平日10:00～17:00） FAX: 03-3405-2532 Email: pr@nact.jp